



祝

# 令和6年

## 郡上市二十歳を祝う会

1月7日(日)に「令和6年 郡上市二十歳を祝う会」が、郡上市総合文化センター(南部会場) および白鳥文化ホール(北部会場)において挙行され、388人(南部184人、北部204人)のみなさんが、それぞれの決意を新たに大人への一歩を踏み出しました。(出席者317人)







## 市長式辞（抜粋）

郡上市では「おとな」への節目の機会として、「二十歳を祝う会」を開催しています。二十歳になるまでは、飲酒・喫煙など、なお若年ゆえの制限がありますが、20歳からはそうした制限も無くなり、社会の中で一人前の「おとな」として扱われます。「おとなになる」とはどういうことなのでしょう。お一人おひとりが自分自身にそのことを問いかけてみてください。そして、これまで生きてきた20年を振り返りながら、今日を節目として「自分はこれからどう生きるのか」を考え、決意し、新しい第一歩を踏み出していきましょう。

さて本年は、平成16年に旧郡上市の七町村が合併し、郡上市が誕生してより、3月1日で20年を迎えます。現在、地域経済の低迷や人口減少等、市を取り巻く課題はとも厳しいものがありますが、20年前の「町村合併」による新市誕生という船出の際は、より大きな荒波に立ち向かっていく心持ちだったのではないのでしょうか。郡上市も皆さんと同じように20歳の「おとな」、20歳の「青年都市」として、歩んでいけるよう努めていきたいと思えます。皆さんは今、就職や勉強をする中で、多くを学び将来の夢や希望に胸を膨らませていると思えます。これから、本当に自分のやりたいことは何かを見つけ、その夢に向かって進んでいきたいと思えます。長い人生には、良いときもあり悪いときもあり、物事が自分の思うようにいかないときがあるものです。ときには、一人で越えられない壁に直面するかもしれません。そのようなときは、一人で悩まず、上司、友人、家族、先輩や後輩など他者に助けを求めることが大切です。この先の人生、常に前向きに失敗を恐れることなく、成長し発展していってください。皆さんの洋々たる前途に幸多からんことを祈念し、併せて、ご参集の皆さまにとって本年が佳い年となりますようお祈り申し上げ、私の式辞といたします。

## 二十歳を祝う会を終えた実行委員のみなさんの感想

- 実行委員が考えた第2部アトラクションで会場が盛り上がり楽しかった。
- 自分たちで楽しく創り上げることができた。良い式にしようとする気持ちが強くなる。
- 他校の人との交流ができ、実行委員が仲良く楽しくできた。
- 自分たちでやることで将来思い出を振り返ることができる。
- 人生で一度だけの貴重な経験で思い出に残る素敵な会になった。



# 誓いの言葉

※誓いの言葉の内容の一部を要約してご紹介します。



たなか りか  
田中 里佳さん  
八幡中学校代表

私は、医学について学ぶために大学に進学しました。もともと人とかかわることが好きで、医療系の仕事に興味があったことに加え、中学生の時に郡上の医療における深刻な現状を知り、自分が生まれ育った大好きな郡上で働き、医療従事者として地域に貢献したいと強く思ったことがきっかけです。

今日集まっているみなさんは、大学などに進学して勉強を頑張っている人、就職して仕事を頑張っている人など、それぞれこの目標や夢に向かって生活していると思います。その中で、楽しいことうれしいことだけでなく、困難なことも多いと思います。しかし、支えて下さる周りの人たちへの感謝を忘れずに、困難を一つひとつ乗り越えて、力強く、自分たちらしく進んで行けたらと思います。



むらさき ひろのり  
村瀬 拓憲さん  
八幡西中学校代表

私は中学卒業後、美濃加茂市にある高校に進学し、寮生活をしながら部活動でバスケットボールに取り組みました。

私たちが高校1年生の頃、新型コロナウイルスの感染が拡大し、部活動の大会がなくなり、思い切りバスケットボールに取り組めない期間が長く続きました。思い描いていた高校生活を送れなかった人も多かったと思います。

私は現在も大学でバスケットボール部に所属し、今年は副キャプテンになりました。先輩が多くいる中でのこの立場というのは、とても自分にとっては荷が重たいという思いもあり、多くの不安があります。しかし、これまでの人生で学んだ、人とのつながりや支え合いを心に置き、頑張りたいと思っています。そして、大学を卒業し、社会に出た時には、これまでの自分の行動が間違っていなかったと思えるように強い志を持って頑張っていきたいと思います。



いちばら りなこ  
市原 璃奈子さん  
郡南中学校代表

私は、海洋開発や海洋研究を行う大学に進学し、海洋国家日本への未来を支える海洋資源開発、海の災害から人々を守る沿岸工学、未知の世界を切り開く海底調査などを学んでいます。

将来は海底調査及び海底地盤工学を学び、海と共に生きる日本のエネルギーと暮らしの未来を支える研究、開発を行いたいと思っています。郡上を流れる長良川やその支流もいずれば大きな流れとなり、大海へと姿を変えてゆきます。人間のみなならず、自然環境や科学技術においても変化は未来の礎を築く大切な要素となつているように感じます。自分自身の変化と共に、社会にも変化を与えるような技術者になることが私の夢です。

川で生まれ、海へと下り、再び川へと戻る清流の女王、鮎のような魚を両側回遊魚と呼びます。周囲の環境の変化にも負けず、成長し、再び生まれた場所へと戻る鮎のように、私も生まれ育った郡上に貢献できるように人間に成長していきたいです。



しもかわ ゆい  
下川 結衣さん  
明宝中学校代表

私は、管理栄養士になるために大学に通っています。郡上を離れてみて、郡上の暮らしがいかに温かいものだったかを改めて感じました。

中学や高校の部活動では、苦しいことや自信をなくすこと、体調を崩すこともありましたが、しかし、一緒に乗り越えてくれた仲間や、ありのままの私を受け入れてくれた友人がいます。心の強さを鍛えてくれた恩師、見守ってくれた人たちがいます。今では、つらかった経験が、何事にもめげない心や、多少のつらさも吹き飛ばす力をつけてくれたと思います。今まで出会った人たちのおかげで、今の私がいまいます。いかに恵まれた経験をさせてもらったかを感じています。人生はいつでも新しい気づきや学ぶことでいっぱい、でももしかしたら人は、一生大人の完成形にはならないのかもしれない。だからこそ全ての人が物事に感謝と尊敬の気持ちを持って、自分らしく強く明るく生きていきたいと思っています。

私には「建築家になりたい」という幼い頃からの夢があります。その夢をかなえるべく、中学校卒業後は郡上を離れ高専に入学しました。中学校では、剣道部の厳しい稽古を共に乗り越えた仲間がいました。高専では、ものづくりの課題やロボット研究会の活動を通じて、仲間と知恵を出し合い、自らの作りたいものを形にしていくことに楽しさを感じ、充実した日々を送ることができました。幼い頃から中学3年生まで一緒だった郡上の仲間、同じ道を志し5年間共に学んだ高専の仲間、そしてこの先、社会に出ていくにつれ、さらに増えていく仲間を大切にしていきたいです。



かねやま はると  
兼山 遥音さん  
郡上東中学校代表

私は4月から仕事に就きます。学校という枠から飛び立ち、社会の一員として、新たに出会う仲間と手を取り合い、協力しながら、今一度自分を見つめ、日々精進し研鑽を積んでいきます。自らの追い求める理想の大人、子どもたちに誇れる大人になりたいと思います。



うすだ かずや  
白田 和哉さん  
大和中学校代表

私は大阪の大学に通っており、郡上市を離れて生活する中で「郡上っていいな」と思うことがありますが、いくつか紹介します。

一つ目は、郡上弁です。大阪の人たちは関西弁で早口でまくし立てるように話すので会話をするだけでも結構疲れてしまいます。そんな時に、郡上に帰ってきて家族や友達と話すと本当にホッとします。郡上弁はゆっくりとした口調や柔らかく、独特の安心感があると思います。私が特に好きな郡上弁は、語尾につく「なれ」です。

二つ目は、豊かな自然です。大学には全国各地から集まった学生がいますが、いわゆる「ふるさと」という風景が地元にある学生は少ないです。四季によって姿を変える山々や清流長良川、満天の星空など、魅力ある風景が多くある郡上という場所で成長できたことは、私にとって幸せであると強く実感しています。



いちみづ なつき  
一佛 夏生さん  
白鳥中学校代表

何歳から大人になると思っていましたか。やはり二十歳というの大きな節目になると思います。でも、私が二十歳になって大人になったと感じることは少ないです。

私は今、社会人として毎日一生懸命仕事に取り組んでいます。自宅や店、道を作る仕事をしており、自分が作ったものが、全く知らない人の人生の一部になっていることが嬉しくて、それを励みに頑張っています。

社会人になったからといって大人になったとは思っていません。できるものなら大人になんかなりたくないです。いつまでも無責任に遊んでいたいのが本心です。それでも大人になっていかなければいけないし、いつかは大人にしてみらっていたことを、自分が下の世代にしてあげられるようになっていかなければいけない。私が誰かに憧れたように、誰かが私に憧れてくれる、そんな大人になっていきたいと思っています。



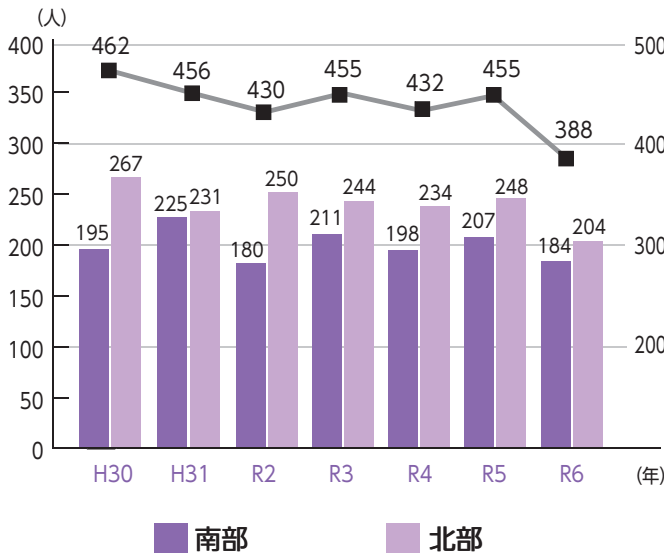
かわばた ちさと  
川端 千聖さん  
高鷲中学校代表

私は今、東京の大学で大好きなスキーをしながら、体育の先生になるために日々精進しています。私は小、中学校で熱心で丁寧に指導して下さる先生に出会い、憧れをもつようになりました。そんな憧れが夢に変わっては高校生の時です。高校ではスキー部に所属してました。怪我を繰り返し、スキーをするのも見るのも辛くなった時期がありました。そんな時に救ってくれたのがスキー部の顧問の先生でした。その経験が生徒に寄り添い、喜びも悲しみも分かち合える先生を目指すきっかけとなりました。そんな先生になれるよう、今はスキーと勉強を両立し、将来は郡上市の教育に貢献したいと思っています。

郡上市に戻ってきたい、教育に貢献したい理由、それは郡上市の地域のあたたかさにあります。今、みなさんが感謝したい人は誰ですか。普段は照れくさくて言えないことも「いつもありがとう」と言葉でそして行動で示していきたいと思っています。

### ◆今年、20歳を迎えた人は 388人 (男 202人、女 186人)

20歳合計人数



### ◆現在の状況と郡上市で生活することについてのアンケート調査を実施しました

※結果はアンケート回答分のみ

